
生徒会の梗存

アラタビト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生徒会の梗存

【Nコード】

N7534R

【作者名】

アラタビト

【あらすじ】

私立碧陽学園の生徒会役員は、一風変わった方法で選ばれる。それは純然たる人気投票。なので外見が美しいものが選ばれることになる。男子は他の男子からの反感がある為、必然的に美少女の集まりの場となる。結果として生徒会長・桜野くりむを始めとする役員は美少女だらけ。その中で、猛勉強の末『優良枠』で役員入りした男子生徒・杉崎 鍵と生徒会顧問の真儀瑠 紗鳥の無理強いで生徒会の雑務に押し込まれた男子生徒・服部 桔梗・・・本作は、彼ら碧陽学園生徒会の日常を綴った記録である

ご挨拶。よろしいな！

はっとり
服部 桔梗

それが俺の名前だ。どうして親はこの名前を付けたのかは知らないが、俺は歴とした男子高校生である

さて、どうして俺がこんな事を言っているのかという疑問を抱いたソコの君

そう『君』だ！

俺は今から長い付き合いになるだろう（たぶん）君に話しかけているのだよ！

おいコラ、キヨロキヨロするな

君だよ君。今このページを読んでる君
そう君だ

とにかく、俺は今回。俺の周りで起きている日常や出来事を語る。
つまり『語り部』というヤツだ

んで、このページを読んでる君達にはそれを見て貰いたいって訳だ

OK？ ドウユーアンダスタン？

よろしい

んじゃ、これから宜しくな

え？ 『語り部って何の語り部』だって？

まああれだ。俺の通う学園の生徒会に俺は所属してる訳なんだが・
・その生徒会のメンバーがな・・・なんと言いますか・
手がかかる、というか・・・変、というか・
・

とにかく普通じゃない

これだけは言える！

外見通り色々と残念な生徒会会長

美少女大好きエロゲマニアの残念副会長

美人なのにアブない生徒会書記

もう一人の副会長にしてこれまた残念な俺の幼馴染み

その幼馴染みの妹で人見知りが激しい一見マトモそうに見えてBL
大好き会計

頼りなさすぎの女性顧問

そして上記6名の生徒会メンバーに振り回される雑務こと俺

この7人がお送りする笑いあり感動あり(?)のドタバタ生徒会の
ヒューマンドラマをお送りしたいと思います

さて、俺はちよくら生徒会室にいつてくるわ

んじゃ、また後でな！ バイなら

え？ 俺が通う高校名？ 『私立高校碧陽学園』 だけど・・・や
ば、時間に間に合わねえ！ んじゃな！

ご挨拶。よろしいな！（後書き）

キャラクタープロフィール

はっとり
服部 桔梗

CV：中村 悠一（岡崎 智也風）

生徒会に半ば強制的に導入されてしまった雑務員であり2年B組所属
血液型はA型68%、O型32%の血液型キメラ

身長は179・8cm 体重は70・5kg。鋼色の髪を逆立てた
前髪と青紫色の瞳が特徴で顔立ちも良い。他の生徒会メンバーに振
り回されては後始末に追われる苦勞人。杉崎 鍵とは親友

成績は平均より上。運動神経も良く、その事から生徒会顧問の真儀
瑠 紗鳥に目を付けられ職権乱用により生徒会へ入れられてしまう
幼馴染みの椎名姉妹とは付き合いが長く、何かと二人を気に掛けて
いる。性格は陽気で、楽しい事が大好き。仲間意識が非常に高く、
それを傷つける者は容赦なく叩きのめす

少し熱血な所もあり困っている者には嫌さず救いの手を差し伸べる
『お人好し』そしてかなり鈍感。怒ると鬼のような表情と殺気を放つ

くりむからは「服部」、深夏からは「桔梗」、真冬からは「桔梗先
輩」、知弦には「桔梗」という名前から「キョー君」、鍵からは「
キキョー」と呼ばれている

幼い頃から剣道を習っており、その実力は全国一位を連覇する程だ
ったが、とある一件で暴力事件を引き起こし引退

現在はバイトを続けて一人暮らしをしており、自炊能力はかなりの物

過去

中学校時代に、椎名姉妹に告白し断られた事を逆恨みした生徒から暴行を受けそうになり、その時は撃退したが更に恨みが増し椎名姉妹を誘拐し強姦しようとした23名の男子生徒全員を全治6ヶ月の重傷を追わせてしまい、剣道の大会出場を剥奪され引退。その後はする事もなく平凡に暮らしていた。本人曰く『後悔はしていない』とのこと

第一章 第一話『駄弁る生徒会』 part 1

「『世の中がつまらないんじゃないの……あなたが、つまらない人間になったのよ!』」

ここ、碧王学園の生徒会室では、今日もどこぞの売れ込み台詞を口にする小柄な少女『桜野 くりむ』が無い胸を張っていた

「はぁ……」

イマイチ内容が掴めていないのか、俺のクラスメートにして親友の『杉崎 鍵』が小さく応え……

「いっきしっ!」

突然鼻に刺激を感じ、くしゃみをする俺こと『服部 桔梗』

「世の中なんて、そんなに大きく変わるモンじゃないわ。小学校に入って初めてランドセルを背負った時に……」

確かに……会長の言葉も頷ける

初めてのことに关して大きな喜びを感じない人間は居ないだろう

初めての友人

初めての成功

初めての試合

初めての「じゃあ童貞も悪くないんですか!?!」

「「ぶっ!?!」」

鍵の一言に吹き出す俺と会長

「今の私の言葉からどうしてそんな返しがくるわけ!?!」

「おまっ……ついに頭に蛆がなんか沸いたんじゃねえのか!?!」

「ふん。甘いですね会長、そしてキキョー……俺の美少女ゲーム脳は、基本まずそっちに直結します」

座っていた席から、いつの間にか個人デスクに移動していた鍵は得意気に言い放つ。しかもまたアイツはエロゲをプレイしてやがる

「杉崎! 少しは副会長としての自覚を持ってって言うてるでしょ!?!」

「自覚ならありますよ? この生徒会が、俺のハーレムっていう……」

「わかった……まずそっちの自覚を捨てることから始めて」

「そんなもの今すぐドブへ投げ捨てちまえ」

呆れた様子で溜め息を吐く会長と俺

「キー君」

すると生徒会室の別室の扉が開き、一人の女性が入ってくる

「あんまりアカちゃんイジメちゃ駄目よ?」

黒くしなやかな長髪を揺らし、グラビア女優顔負けの体をもつ女性にして生徒会の書記である『紅葉 知弦』その人だ

「知弦うゝ」

「やだなゝ、イジメてなんかいませんよ。ただ辱めてるだけで・・・」

「「余計悪いわ!!」」

会長と俺が同時に叫ぶが、鍵は耳を貸さず知弦先輩へ熱烈なアタックをかけ始める

俺はというと、鍵がほったらかしにしていたエロゲを直視しないように動かしデータを保存。P Cの電源を切る・・・パスワードでも組み込もうか・・・

とりあえずP Cを畳み、俺はポットのお湯を組み人数分のお茶を用意する

すると、生徒会室の入口が開き俺の幼馴染みが現れた

第一章 第一話『駄弁る生徒会』 part 1 (後書き)

短くてサーセン
m () m

第一章 第二話『駄弁る生徒会』 part 2

「ういゝっす」

「遅くなりました」

生徒会室に入ってきた2人の少女。焦茶色の髪を二つに縛り、活発そうな『椎名 深夏』とその妹にして金色の長髪をし白いリボンをした一見大人しそうな『椎名 真冬』
俺の古くからの付き合いで幼馴染みである

「よう深夏、真冬。遅かったな」

俺は二人にそう言い、コップを新たに2つ追加する

「おう、野球部の助っ人でな」

「どおりでバットを担いでるわけだ」

えーと、会長がミルクティー（甘め）で知弦先輩が紅茶・・・深夏はスポーツドリンク、真冬はオレンジジュース・・・鍵は水・・・
・じゃなく緑茶と

後は適当な菓子を用意して・・・これじゃただのお茶会じゃ・・・
・いまさらか

と、俺が見ない内に鍵と深夏が何やら言い合っているが放っておこう

「あい、紅茶」

「ありがと、キョー君」

コトン

「ほい会長、ミルクティー甘めとお菓子」

「わーい♪」

コトン

「ほら、真冬にはオレンジジュース」

「あ、ありがとうございます」

コトン

「おい、鍵と深夏。何時までも喋ってねえで席に座れ」

「お、サンキュー桔梗」

「……なんか俺の緑茶、やけに濃くない？」

「気のせいだ……チッ」

「舌打ち!？」

コトン

「さあてと、全員揃った訳だし。会長、今日の議題は？」

「そうやって言ってくれるのは知弦と服部だけだよ」

「はいはい」

「なんか、生徒会長って桔梗の方が適任なんじゃないか？」

「ぐっ!？」

「真冬もそう思います」

「てかもう会長交代したほうがいいんじゃない？」

「す、杉崎にだけは言われたくないわよ！」

「そうだぜ鍵。生徒会会長なんて仕事が俺に勤まるわけねえだろう」

「は、服部」

「ただでさえ会長をあやすのが面倒くさいのに」 (笑顔)

「うえゝゝん！」

いきなり泣き出し知弦先輩に抱き付く会長

「よしよし、可哀想なアカちゃん」

会長を宥める知弦先輩

「はあゝ……んで、結局今日の議題は何なんスか？」
溜め息を吐きながら俺が言うと、鍵がふふんと笑う

「それは勿論、俺のハーレムが（ボグシャ！）ぶは！？」

とりあえず鍵が隣だったので裏拳で黙らせる

「すまん、ワザトだ」

「少しは詫びろよ！？」

ここ、碧王学園生徒会はいつもこんな感じなのだ
俺としてはちゃんとさせたいのだが……いけません。俺一人の
力は脆弱なのだ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7534r/>

生徒会の梗存

2011年10月8日22時01分発行